

利用実績を踏まえた今後の取り組みについて

目 的 AI オンデマンドバス実証実験は、今後の持続可能な交通機関として事業展開に向けた計画とする。

現状分析 令和 5 年 10 月 23 日運行開始から現在までの分析結果を踏まえ、パスポート会員とアプリ登録者は緩やかな上昇傾向にある。
一方で、初年度目標のパスポート会員年間 3,000 世帯・人の目標達成は厳しい。だが現金収受対象層のゲスト会員（アプリ登録）は、約 1 か月で 500 人に至っており、さらにアプリ登録者の利用促進の積極的取組が重要となる。
これらを踏まえ中長期的なスパンで再構築を図りたい。

計画内容 地域の公共交通システムがより効果的かつ持続可能なものとなることが期待される取組み(以下のとおり)

1. 未利用者層の活性化に向けた利用状況データ分析とアプローチ
未利用者層の活性化は、持続可能な公共交通運行を促進する上での重要な課題です。アプリ登録されているが一度も利用していない層（アプリ登録者の 30~40%）の利用状況データを抽出し、この潜在的ニーズを特定をし、特定された層に対してキャンペーンや特典の提供、利用促進のための施策展開をします。
2. 利用方法の理解向上の取り組み
町民への「のるーと足柄」の利用方法への理解や未周知が利用の妨げとなっていることが一因。アンケート調査を通じて未利用者層の特定と理解度向上に努め、広報活動を通じて「のるーと足柄」及び法人の取り組みを広く周知します。
3. 福祉課と連携した高齢者対象の「75 歳以上のるーと足柄クーポン」
高齢者の公共交通の利用促進するため、福祉課との連携し 75 歳以上の後期高齢者に対してアプリ登録利用者へ町からの補助を受け「75 歳以上のるーと足柄クーポン」を発行し、利用促進を図ります。

そ の 他 実証実験中であり、今後も継続して分析結果を踏まえ、松田町及び各関係機関・会社と連携をして目標に向けた協議をして進めていく。